



地域振興は人づくりから — 地方に根ざし、世界にはばたく新潟県立大学

U niversity of N i i g a t a P refecture

2009.8
Vol. 1
新潟県立大学ニュース



学長挨拶

地域振興は人づくりから

新潟県立大学 学長

猪口 孝



新潟県立大学は、創造的な教育研究活動を通じた地域の復権を実現するため、平成21年4月に開学し、若さと大いなる可能性を秘めた第1期生245名を迎え入れました。これも、皆様方の温かいご支援とご協力の賜であり、厚く感謝申し上げます。

本学は、「国際性の涵養」、「地域性の重視」、「人間性の涵養」の3つの基本理念に基づき、グローバルな視野、地域への深い理解に根ざし、そして国内外を問わず人と人との交流・共生を進める際に大切な豊かな人間性を育むことを通じ、地域の様々な課題に対応できる人材を育成することを使命としております。それを達成するため、新潟県立大学には国際地域学部と人間生活学部の2学部を設置いたしました。

国際地域学部では、「国際」と「地域」の視点から教育・研究を行い、国際的に活躍でき、また、地域のグローバル化に対応する地域づくりを担う人材を育成したいと考えております。同学部では、その中に国際社会・比較文化・東アジア・地域環境の4コースを設け、国際的・学際的な教育・研究を行うこととし、語学活用能力、特に英語コミュニケーション能力を伸張し、新潟から世界へ羽ばたき活躍できる人材や、「グローバルな視野を持って、ローカルな課題に取り組む」ことができる地域の中核的人材を育成したいと考えております。

人間生活学部では、「育」と「食」をキーワードに、「人間」と「生活」の視点から教育・研究を行い、少子高齢化が進む地域社会に対応し、持続的な地域の発展と共生社会の実現に貢献できる人材

を育成したいと考えております。人間生活学部には、子ども学科と健康栄養学科の2学科を置き、子ども学科では、質の高い保育者や地域で子どもや子育てを支援する人材を、健康栄養学科では、食生活の改善を通じて地域の健康増進を推進する人材を、すなわち、「育」と「食」のスペシャリストを育成したいと考えております。

言うまでもなく、大学の基本は教育、すなわち人材の育成であり、人づくりなしには地域振興はあり得ません。郷土の偉人、小林虎三郎もいっているように、教育こそが第一のプライオリティでなければなりません。教員と学生の間人的交流を大切にしながら、豊かな人間性を培うために、学生一人ひとりに対してきめ細やかな教育を行い、学生同士が切磋琢磨し学び合う環境づくりに努めて参りたいと考えております。

米国務長官ヒラリー・クリントン氏は、Bloom Where You Are Planted と自伝で両親の教えを語っています。春の到来を告げ、力強くしかし明るく咲き乱れるタンポポは、アスファルトの道路の亀裂からも花を咲かせる強さがあります。花のあとは種が綿毛とともに四方に飛び出し、新しい活躍の場所を見つけます。

Bloom Where You Are Planted 一人一人様々な個性を發揮できるように手助けするとともに、学生がどんな状況にあっても的確に判断し、対応できる社会人となるのを案内し、善導するのが県立大学の大きな役割であると考えております。それを実現するため、教員一丸となって対応して参りますが、学生には、「大学で学ぶ」ということは、単に与えられた課題をこなすだけでなく、「自分で考える」という、自主性・積極性が不可欠であり、「どこかへ行けば誰かが教えてくれるだろう。」ではなく、何のために学ぶのか、これを実現するためにはどうすべきかという前向きな姿勢で物事に対処していただきたいと考えています。

「新潟県立大学なしには新潟県の振興なし」という意気込みで、全身全霊取り組んで参りますので、今後とも、新潟県立大学に対する皆様方の温かいご支援とご協力をお願いいたします。

■ 新潟県立大学の基本理念

大学概要

○国際性の涵養

東アジアをはじめとする世界の人々との社会的・文化的交流の促進を促し、グローバルな視点からの教育研究を進めます。

○地域性の重視

地域への深い愛情と理解を持って地域づくりや地域の共生を担う人材を育成し、地域社会に開かれた大学を目指します。

○人間性の涵養

豊かな人間性を培うために、学生一人ひとりに対してきめ細やかな教育を行い、学生同士が切磋琢磨し学び合う環境をつくります。

■ 学部・学科構成

国際地域学部	国際地域学科	入学定員160名
人間生活学部	子ども学科	入学定員 40名
	健康栄養学科	入学定員 40名

教員の横顔

A PROFILE OF TEACHERS

国際地域学部 国際地域学科

准教授 **グレンパオレット**

GLEN PAOLETTO



UNP(新潟県立大学)で現在私が取り組んでいるのは、国際連合やその他のプロジェクトと大学の橋渡しをすることによって、大学の国際化を推進し、その結果として、学生たちが国際的なプロジェクトに参加したり、実際に国際機関で働くようになることを手助けすることです。今日、グローバル化を抜きにして新しい世界を語ることはできなくなりました。世界の一部で我々が起こす行動は思いもよらずどこかの国の人々に影響を及ぼします。このような新しい世界で活躍するには新しいスキルが必要となります。そして、これらのスキルを学べる大学がUNPなのです。私がUNPの中で教えるのは、地球環境問題、国際平和問題、日本の新しい「グリーン・マーケット」(環境技術マーケットおよび観光事業)、日本や新潟県のNGO、上級ビジネス・スキルなどに関する事柄です。UNPに入った学生の一人ひとりがそれぞれの学科やコースを活用し、自分の能力を十分に発揮することを強く望みます。私たちは新潟を愛しています。その新潟と日本の両方に真に貢献できるスキルをUNPでの楽しい大学生活を通して学んでください。

国際地域学部 国際地域学科

准教授 **高端正幸**

MASAYUKI TAKAHASHI



今年の4月に本学に着任しました。大学院を修了したのち、都内の研究機関に勤め、埼玉県内の私立大学に移り、本学が3つ目の職場となります。初めての新潟生活は、とても新鮮です。専門は財政学です。国や県、市町村といった「政府」が果たすべき役割はなにか。その役割を果たすために、どんな税制を備えて必要な資金を集め、それをどんな目的にどれだけ用いるべきか。そんなことを考える学問です。財政問題は、私たちの生活のあらゆる面に関係しています。交通網や市街の整備、環境保護、介護サービスや年金、子育て支援…。私自身はこれまで、日本の年金・医療の問題や自治体の財政問題を研究するかたわらで、発展途上国、なかでもフィリピンの財政問題をずっと研究してきました。いわば「国際」と「地域」の両方を財政学という窓から見てきたわけです。世界に羽ばたくもよし、生まれ育った地域で活躍するもよし。学生の皆さんの可能性を開くお手伝いができることを、楽しみにしています。また、前任地では市民団体と協力して地域の問題を調査したりもしていました。ここ新潟でも、身近な問題を地域の方々と共に考える機会があれば、とても嬉しく思います。学生の皆さんも地域の皆さんも、ぜひお気軽にお声がけください。

人間生活学部 子ども学科

講師 **角張慶子**

KEIKO KAKUBARI



「おとなも発達する」こう聞いたのは大学2年の夏でした。え～??発達=子どもが大きくなることじゃないの…?と思っていた20歳の私は、大きな衝撃とそして自分の行く先に明るい未来を与えられた気がしました。これが私の専門としている「発達心理学」との出会いです。おとなも発達途上。だから常に完璧な自分であろうとしなくていい。上へ上へばかりが発達ではない。そんなメッセージに惹かれ、それは、今も研究や地域活動のテーマでもあり、プライベートな「自分」の心の支えでもあります。先日、講義の中で「親の発達」の話をしたら、「発達って子どもだけだと思っていたけど違うんだ…」という反応が学生の皆さんからもあり「にまみり」していたところでした。

私が今一番、興味を持って取り組んでいる研究・地域活動は「子育てをしている人の手による子育て支援」です。子育てをしている人同士が支えあい、子どもも親も育ちあう。そんな地域での活動を通して、キラキラと時には真剣に悩みながら子育てをしている方々にお会いすると、まさに「発達」の瞬間に立ち合わせていただいている感じがします。

様々な可能性を秘めた皆さん。人・学問・考え方…沢山の出会いに期待して、新潟県立大学と一緒に学びませんか。

人間生活学部 健康栄養学科

教授 **荒井富佐子**

FUSAKO ARAI



私は今年4月から本学に勤務しております。二十数年、管理栄養士として主に教育畑で働いてきました。新設の新潟県立大学では基礎作りのお手伝いができればと考えています。私の専門科目は「給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ」及び「給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ」です。平成14年からカリキュラムの改正に伴って、従来の「給食管理」が栄養士養成課程は「給食の運営」、管理栄養士養成課程は「給食経営管理論」となりました。管理栄養士はこれまでの給食業務に、さらにマネジメントできる資質が求められるようになったわけです。授業は3・4年生になりますが、特に実習ではこのような要素を盛り込んで、学生の皆さんと一緒に授業を作り上げていくことを考えています。管理栄養士は乳児から高齢者まで、様々な場面で食事を通して健康管理を支援する大事な役割を担っています。4年間でその専門性はもちろん、人間性にも磨きをかけて、将来大きく羽ばたいてほしいと願っています。私の研究課題は「欧米における給食システムと栄養士活動」です。毎年、海外へ研修に行ってきましたが、それぞれの国から学ぶことは多いです。もしも、皆さんの中で興味のある方が居られれば一緒にしませんか。

新潟県立大学の魅力を紹介します

CAMPUS LIFE

■ サークル活動

2009年4月に開学したばかりですが、新入生たちにより新しいサークルが次々と設立され、キャンパス内は活気に満ち溢れています!



■ 体育祭REPORT

5月22日(金)、学生組織である学友会主催の体育祭が行われ、バスケ、バレー、ドッチボール、リレーで熱戦が繰り広げられました。緊迫した試合展開となる場面もあり、学生同士の交流が活発に行われ、盛り上がりのある1日となりました。



練習風景

■ カフェテリア

ビュッフェ形式をメインとしたメニューの豊富な食堂で、丼物・麺類も充実した学生に人気の憩いの場です。また、書籍や文具・食料品の購入、自動車教習所や各種検定試験の申し込みができる売店(生協)があり、とっても便利です!



君だけのCampus Lifeが
ここにあるっ!



■ SALC (サルク)

セルフ・アクセス・ラーニング・センターの略称で、全学生が利用できる語学学習支援施設です。SALCでは英語を使う様々な活動が企画運営されています。自習用の教材(CD・DVD・海外の雑誌等)も豊富に備えてあり、英語が堪能な日本人スタッフが常駐し、学生の英語学習をサポートしています。また、教室内は受付を除き英語しか話してはいけないというルールがあるため、日々学生同士の英会話が盛んに行われている楽しい空間です。



■ CALL (コール) 教室

英語教育を支援する様々なマルチメディア教材が利用できるマイク付きヘッドホンの付いたパソコンが完備しており、友人と対話形式で英会話を行ったり、自分自身の発音やアクセントをチェックすることができます。また、授業のない時間帯は自由に利用することができ、自分の理解度や進度に合わせて学習することができます。



大学祭情報：10/31(土)、11/1(日)に大学祭(県立新潟女子短期大学と合同)を開催します。お気軽にご来校ください!

センター紹介

INTRODUCTION TO THE CENTER

地域連携 センター



センター長
島崎 敬子
(人間生活学部
子ども学科 教授)

地域に開かれ、地域とつながりあう大学へ

これまで県立新潟女子短期大学は、さまざまな場面で地域と連携しながら、独自の教育研究活動と人材の育成に取り組んできました。そのような大学のあり方を大事に受け継ぎ、新潟県立大学でも、大学の基本理念である「地域性の重視」を追求し、地域社会に開かれた大学として、これまで以上に地域づくりに貢献していくために、さまざまな地域連携や産学官連携の総合窓口となる地域連携センターを設置しています。センターの目的は、地域社会のさまざまな課題の発見と解決に向けて、本学の教育・研究機能を積極的に活用し、地域と連携して、実践的・協力的に取り組む、地域貢献を果たしていくことにあります。

センターの主な活動としては、①産官学連携の推進(産業界・行政・NPO等と一緒に社会的課題に取り組む委託研究や共同研究を進めること)、②生涯学習の推進(中・高校生をはじめ一般社会人や専門職者等の多様な学習ニーズに応じて、中・高大連携公開授業や各種公開講座等の学習機会を提供し、地域と大学がともに学び向上すること)、③調査研究・実験研究の推進(今日的な社会課題・地域課題の解決のための専門的調査研究、実験研究の

実施、提供を行うこと)、④学生の社会参加の推進(学生が地域活動に積極的に参加し視野の拡大を図ること)等があります。これらの活動は、国際地域、人間生活の両学部学科の持ち味を活かした内容で、本学に新たに設置されたキャリア支援センターや国際交流センターとも連携・協力して実施することになります。

センターでは、学生と教職員が一体となって、大学がある新潟市東区の住民の方々をはじめとする地域住民、NPO、企業、行政、他大学などと積極的に交流するとともに、地域の活動に積極的に参加して、地域社会との密接な連携を推進し、地域社会の発展向上につなげていくことができたいと思っています。地域にあるさまざまな思いや願い、課題について、大学と地域が双方向につながりあい、協働して取り組み解決していくことを通して、学生の地域から学ぶ力・学びを広く社会に活かす力が育まれ、本学の教育研究活動のさらなる推進が図られるものと期待しています。

地域に開かれ、地域とつながりあい、地域づくりに貢献する大学を目指して今まさにキックオフ!です。どうぞよろしくお願いたします。

次号では、「キャリア支援センター」をご紹介します。

入試関連情報

オープンキャンパス2009秋 情報

日程 2009年9月19日(土) 9:30am~

内容 「他の国公立大学と併願できる入試制度って?」
 「どのような授業が受けられるの?」
 「どのような資格が取得できるの?」
 ・学科説明、模擬授業、キャンパス見学、教員との個別相談などで、色々な質問にお答えします。

詳細は、新潟県立大学入試課(TEL025-270-1311 E-mail:nyushi@unii.ac.jp)まで、お問い合わせください。

平成22年度(2010年度)入学者選抜試験

○入試日程と募集人員について センター試験利用科目、個別学力検査、選抜方法等については、入学者選抜要項をご確認ください。

推薦入学試験

出願受付期間	試験日	募集人員		
		国際地域学科	子ども学科	健康栄養学科
11/2月~6(金)	11/14(土)	45名	10名	10名

一般選抜

出願受付期間	試験日	募集人員		
		国際地域学科	子ども学科	健康栄養学科
1/12(火)~22(金)	2/7(日)	50名	5名	5名
1/25(月)~2/4(木)	2/21(日)	50名	20名	20名
2/22(月)~3/3(水)	3/14(日)	15名	5名	5名

○独自の入試日程により、他の国公立大学と併願が可能

本学は公立大学ですが、他の国公立大学が実施している分離・分割方式による入学選抜には参加していません。個別学力試験を独自に行なっているため、他の国公立大学との併願が可能となっています。

新潟県立大学			2010年 (平成22)	他の国公立大学	
A日程	B日程	C日程		前期日程	中・後期日程
大学入試センター試験1月16日(土)、17日(日)					
出願受付1/12(火)~22(金) 試験日2/7(日)	出願受付1/25(月)~2/4(木)		1月下旬	2次試験出願受付1/25(月)~2/3(水)	
合格発表 2/17(水)	試験日2/21(日)		中旬		
入学手続 2/18(木)~24(水)		出願受付2/22(月)~3/3(水)	下旬	前期日程試験2/25(木)~	
	合格発表 3/3(水) 入学手続 3/4(木)~11(水)		3月上旬	合格発表3/1(月)~10(水)	中期日程試験3/8(月)以降
		試験日3/14(日)	中旬	入学手続締切3/15(月)	後期日程試験3/12(金)以降
		合格発表 3/20(土) 入学手続 3/23(火)~26(金)	下旬		合格発表 3/20(土)~23(火) 入学手続締切 3/27(土)

○大学案内の請求について 今年度の大学案内、入学者選抜要項については以下の方法で請求できます。

〈郵送で本学へ直接請求する場合〉

「大学案内請求」と朱(赤文字)書きした封筒の中に、宛先を明記し240円切手を貼付した返信用封筒(角2)を同封し本学まで郵送してください。
 〒950-8680 新潟市東区海老ヶ瀬471番地
 新潟県立大学 入試課

〈QRコードで請求する場合〉

携帯電話でQRコードを読み取り、説明に沿って請求してください。



〈大学のホームページより請求する場合〉

本学のホームページへアクセスして頂き、案内に沿って請求してください。
<http://www.unii.ac.jp>
 ※QRコード、ホームページからの資料請求については、テレメールを利用したのになります。



おたのしみコンサート(きっと明日もいい天気)へのお誘い

地域の子ども達と音楽を通して交流しようと思ったこのコンサートも今年で16回を数えます。この不穏な世情の中で子ども達も緊張を強いられていますが、こんな時だからこそ、夢や空想の中で遊ぶ自由を、子ども達と一緒にもう一度思い出してみませんか? 入場無料、豪華(?)おみやげ付きです!

日 時 平成21年9月6日(日) 14:00開演
会 場 新潟市民プラザ(NEXT21 6階)
出 演 県立新潟女子短期大学生生活科学科生活福祉専攻2年生
 新潟県立大学人間生活学部子ども学科1年生
プログラム ♪第1部 そうだったらいいのにな、虫歯建設株式会社 他
 ♪第2部 ダンス、『シンデレラ』
お問い合わせ 齊藤美和子研究室 Tel & Fax 025-270-1186

編集
後記

本学の第一期生がキャンパスライフをスタートさせて4か月。その歩みとともに本学の歴史が形づくられています。同時に、本編でご紹介した本学の活動は、関係各位のご支援、県立新潟女子短期大学(H21.4募集停止)の伝統の賜であることを教職員が再認識しております。新しいが伝統ある「県大(UNP)」に今後ともご期待ください。

連絡先

新潟県立大学

〒950-8680
 新潟市東区海老ヶ瀬471番地
 TEL:025-270-1300
 FAX:025-270-5173
 E-mail:unp@unii.ac.jp

新潟県立大学 東京サテライト

〒113-0024
 東京都文京区西片1丁目17番8号 KSビル9階
 TEL:03-5803-6955
 FAX:03-5803-6971
 E-mail:unptokyo@unii.ac.jp